

令和3年度 日本病院前救急救命学会事業報告

令和4年6月

総務運営委員会活動報告

- ・ 国外の救急救命士同等資格保有者から入会申請があった場合の取扱いについて検討を行ったが、結論は出なかった。
- ・ 理事会からの諮問事項について、学会名称変更、組織会員、年会費の値上げ、委員会に関する定款変更及び委員会設置規定を検討し、答申した。
- ・ 将来構想検討委員会からの付託事項について、学術集会の単独開催、学会誌の発刊、広報活動の強化、学会主催セミナーの開催及び倫理委員会の開催を検討し、答申した。

広報委員会活動報告

- ・ ホームページ及び Facebook への広報活動・運営及び維持管理を継続して実施した。
- ・ 学術集会専用ページの作成及び救急救命に関わるニュースについて告知を行った。
- ・ 編集委員会と協働して、救急救命士ジャーナル、ニュースレター及び救急救命士向けのハウツー本を発刊した。

教育研修委員会活動報告

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、特に大阪府において搬送困難患者が多発し救急隊員が困窮していることに対して、学会から大阪の救急隊員へのエールメッセージを SNS、救急救命士ジャーナル、ニュースレター及びホームページで送った。
- ・ 救急講習に関するインストラクションについてセミナーを開催した。

評議員審査委員会活動報告

- ・ 本年度は、当委員会に関する活動はなし。

編集委員会活動報告

- ・ 準機関誌の救急救命士ジャーナルについて、出版社との調整及び内容を検討した。
- ・ 広告媒体及び申込書の作成及び募集を行った。
- ・ WEB 会議を 6 回開催した。
- ・ 救急救命士ジャーナルを 1 巻 1 号通巻 1 号から 2 巻 1 号通巻 4 号まで発刊した。
- ・ ニュースレターを 1 号から 4 号までに発刊した。

- ・投稿論文4編を受付及び査読し掲載した。
- ・救急救命士を対象とした研究及び学会発表のためのハウツー本「救急救命士のためのHow To 学会発表」を監修、発刊した。

国内外関係機関との交流連携委員会報告活動報告

- ・ZOOMを用いて会議を実施した。

倫理委員会活動報告

- ・本年度は、当委員会に関する活動はなし。

第7回日本病院前救急救命学会学術集会報告

開催日時 2021年10月31日

開催場所 WEB開催：ZOOM ウェビナー

会長 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 津波古 憲（理事）

テーマ 「救急救命士が目指す将来像」～それぞれの現場における Professional autonomy ～

プログラム プログラム（LIVE 配信）

■9:00～9:03 会長ご挨拶

■9:03～9:15 会長講演 第7回日本病院前救急救命学会学術集会

会長 津波古憲

座長：関根 和弘（京都橘大学）

■9:15～10:15 教育講演 JRC 蘇生ガイドライン2020

座長：脇田 佳典（日本病院前救急救命学会 代表理事）

野々木 宏（一般社団法人 日本蘇生協議会 代表理事）

■10:20～11:50 パネルディスカッション①（指導救命士セッション）

テーマ：～professional autonomy の確立～ 指導的役割の救命士と各機関の取り組み

座長：北村浩一（石橋地区消防組合）、原貴大（明治国際医療福祉大学）

佐久間友行（福島市消防本部）、長谷 浩（明石市消防局）、小野泰弘（海上保安庁）、菊地誠二（自衛隊陸上）、後藤奏（日本救急システム株式会社）

■12:00-13:30 教育セミナー

座長：鈴木 健介（日本体育大学）

共催：一般社団法人全国救急救命士教育施設協議会共催プログラム（JESA）

○教育施設におけるVRシステムを使用した救急救命士教育

■13:45～15:00 一般演題 5題

座長：中川貴仁（弘前医療福祉大学/短期大学部）、一柳保（高野町消防本部）

■15:15～16:45 パネルディスカッション②（救急救命士法改正セッション）

テーマ：救急救命士法改正に伴う医療機関内での救急救命士の活動の現状と課題

座長：長橋和希（東京曳舟病院）、喜熨斗智也（国土舘大学）

特別発言者：三浦 邦久（医療法人伯鳳会 東京曳舟病院 副院長）

パネリスト：長橋和希（東京曳舟病院）、北原学（国立国際医療研究センター病院）

加藤渚（東京医科歯科大学病院）、佐々木俊一（済生会宇都宮病院）、古賀司（米盛病院）

■16:45～17:00

閉会の言葉 津波古 憲

次回会長挨拶

第8回日本病院前救急救命学会 大会長 関根 和弘（京都橘大学）

■17:00 閉会

事前参加登録人数 210名 ZOOM参加者総数 147名（最大値）